

新潟県土連新規採用職員の現地研修

北陸農政局柏崎周辺農業水利事業所 調査設計課

平成 26 年 7 月 4 日（金）に新潟県土地改良事業団体連合会の新規採用職員と事務局長ら 7 名が、柏崎周辺地区の現地研修に訪れました。

まず、柏崎周辺地区中央管理所で渡邊所長から柏崎周辺農業水利事業の経緯と内容について、武田柏崎土地改良区事務局長から中央管理所の管理状況について説明がありました。その後、吉村技官の案内で、当事業で改修した藤井頭首工と善根頭首工を見学しました。藤井頭首工には農業用水を巡る争いの歴史を「水の一滴、血の一滴」という言葉に記す石碑が立てられています。また、上流の善根頭首工には上流と下流の配分が誰からでも分かるように、射流分水工により用水が分けられています。両頭首工を通して、農業用水が地域や歴史に根付いたものであることを感じてもらえたのではないのでしょうか。

頭首工を見学した後は、大規模な水稻栽培を行っている農業経営体として、有限会社山波農場を訪れました。創業者であり、現在は取締役相談役を務める山波氏から、設立の経緯について紹介のあったほか、大規模経営体から見た集落における今後の規模拡大の考え方、山波農場で認証を得ている J G A P の取組内容と効用について、貴重な話をしていただきました。

その後、当事業で建設している市野新田ダムの建設現場へ移動し、建設状況や基礎処理試験について、岡田技官から説明がありました。基礎処理の目的や種類について、参加者は聞きながら聞いていました。また、6 月から着工している仮排水トンネル工事



歴史を物語る石碑



山波農場での貴重な講話



「カーテンを想像して下さい」

について、トンネルと掘削機を実際に指し示しながら説明がありました。降雨時の安全対策や、完成後に仮排水トンネル内に敷設する送水管について、参加者から質問があり、貴重な解説を聞き逃さないよう、熱心に聞いている参加者の姿が印象的でした。

今回の研修では、歴史のある頭首工や、大規模な農業経営体、建設中のダム等、土地改良事業に関する様々な現場で研修を行うことができました。当事業所では、今後とも、積極的に現地研修への協力や現地見学会の開催を行っていきたいと考えています。

(原稿作成：Y)



掘削中の仮排水トンネルの前で説明



掘削機と一緒に集合写真